

よこはま地震防災市民憲章（案）について

憲章素案について、昨年 12 月から本年 1 月まで市民意見募集を行うとともに、市民や有識者などによる市民検討会（第 4 回）で検討を行い、このたび、憲章（案）としてまとめましたので、ご報告いたします。

1 検討の経緯

(1) 市民検討会	
第 1 回市民検討会	平成 24 年 6 月 22 日
第 2 回市民検討会	平成 24 年 7 月 17 日
第 3 回市民検討会	平成 24 年 8 月 24 日
第 4 回市民検討会（最終）	平成 25 年 1 月 24 日
(2) 市民意見募集	
第 1 回市民意見募集	平成 24 年 7 月 13 日～同年 8 月 10 日
第 2 回市民意見募集	平成 24 年 12 月 20 日～平成 25 年 1 月 21 日

2 第 2 回市民意見募集結果

(1) 募集内容	「よこはま地震防災市民憲章」素案についての意見					
(2) 応募数	28 団体・個人					
(3) いただいた意見	141 件					
	憲章理念	行動指針	その他	計	憲章（案） に採用 したもの	・趣旨は盛り込んで いるもの ・啓発で取 組むもの
変更を求める	20 件	39 件	0 件	59 件	16 件	10 件
追加を求める	23 件	30 件	8 件	61 件	11 件	31 件
削除を求める	0 件	5 件	0 件	5 件	0 件	0 件
賛成意見	3 件	3 件	0 件	6 件	—	—
その他意見	1 件	2 件	7 件	10 件	8 件	0 件
計	47 件	79 件	15 件	141 件	35 件	41 件
(4) 主な意見	《別紙 1》					

3 第4回市民検討会（最終）の検討結果

(1) 内容

- ・ 第2回市民意見募集で寄せられた市民意見の反映について意見交換
- ・ 憲章の今後の取り扱いについて

(2) 主な決定事項など

- ・ サブタイトルは「私たちの命は私たちが守る」とする。
- ・ 憲章理念は、わかりやすくするために、伝えたいメッセージを強調する。
- ・ 現状においては、女性の視点を生かすという記述は必要。
- ・ 行動指針に、行政と力を合わせて自助・共助を推進することを追加する。
- ・ 最終的な文言の整理は座長に一任する。
- ・ 憲章を作って終わりではなく、市民に行動してもらうため、今後は、市民への周知を進めてほしい。

4 今後の予定

2月	憲章制定に係る最終調整
3月	確定した憲章の市会報告
3月2日～17日	憲章を題材とした小中学生ポスター展、防災川柳展 (表彰式 3月17日 市民防災センター)

《別紙1》 第2回市民意見募集における主な意見

《別紙2》 憲章（案）

《別紙3》 市民意見募集時の素案

記号凡例

○：採用

△：趣旨は盛り込んでいるもの、
啓発で取組むもの

×：採用せず

—：賛同意見

よこはま地震防災市民憲章（素案）
第2回市民意見募集における主な意見

憲章理念

市民意見	検討結果	
副題について、自分で自分を守れない人も いるため、「自らの命は自ら守る」を「私 たちの命は私たちで守る」にしてほしい。	○	憲章のテーマである、自助・共助 を共に表現できるため、変更しま す。
「行政からの支援はすぐには届きませ ん。」と言い切るのではなく、「届くとは限 らない」としてはどうか。	×	行政からの支援はすぐには届かな いものとして備えることが大切で す。
「避難生活は苦しいけれど、」とあるが、 本当の苦しさは知らないのに、被災地の人 が読んだら不愉快ではないか。	○	横浜市民は、実際に避難生活を経 験していないため、表現を工夫し ます。
「頼みの行政も被災する」を「要の行政も 被災する。」にしてほしい。	×	自助・共助・公助はそれぞれが大 切な役割をもっています。 (行政を要とすると、行政の役割 だけが強調されてしまいます)
公助・協働の必要性を重視するため「だか ら、私は次世代に伝える。自助・共助の大 切さを。」を「自助・共助そして公助・協 働の大切さを。」にしてほしい。	△	自助・共助がテーマなので、公助 は除外します。協働については行 動指針に趣旨を盛り込んでいま す。
伝えたいメッセージかが分かるように、デ ザイン上の工夫が必要。(文字サイズ、太 字など)	○	一部ゴシック表記にするなど、わ かりやすくします。

行動指針

市民意見	検討結果	
表題について 「よこはま地震防災市民憲章・行動指針」は、憲章なのか指針なのか、その両方を意味するのははっきりしないので、「よこはま地震防災市民憲章〔行動指針〕」または「よこはま地震防災市民憲章にかかる行動指針」ではいかがか。	○	行動指針の位置付けがはっきりわかる表現とします。
通し番号について 4つのカテゴリーをまたいで通し番号を付けるのはおかしい	○	カテゴリーごとの通し番号とします。
1について 「少なくとも3日分の水…」とあるが、生活水ではなく飲料水と認識させるため、「少なくとも3日分の飲料水…」とした方がよい。	○	正確な表現にするため、変更します。
1について 初期消火のための消火器具も設置しておきます。と追加した方がよい。	○	初期消火は大切なので、(備え)に追加します。
2について 行動の中で耐震化等は最も大事なことなので、順番を前にした方が、重大さが伝わる。	○	命を守ることは大切なので、項目の順番を変更します。
4について 「家族や大切な人との連絡方法をあらかじめ決めておきます。」を、「家族や大切な人との連絡方法、TEL、携帯、メールなど書き出しておく」とした方がよい。	△	全てを網羅せず、一般的な表現に留めました。詳細については、日頃の啓発の中で説明をしていきます。
5について いっつき避難場所を「地域防災拠点」の前に追加した方がよい。	○	いっつき避難場所の周知は大切なので、追加します。
6について 「家族ぐるみ、地域ぐるみで防災訓練に参加します。」を、「家族ぐるみ、会社ぐるみ、地域ぐるみ…」とした方がよい。	○	発災時には企業の役割も重要なことから、追加します。
9について 「近所のお年寄りや障害者の安否を確認し」を、「近所の皆さんの安否を確認し」とした方がよい。	×	より具体性を持たせるためこの表現にしてあります。
10について 「備蓄食料と常用薬を持って行きます。」を、「非常持ち出し品を持って行きます。」とした方がよい。	×	より具体性を持たせるためこの表現にしてあります。

市民意見	検討結果	
13について 「地域防災拠点ではみんなが被災者。」は、仮設住宅でもみんなで協力する必要があるので「避難所生活ではみんなが被災者。」としてはどうか。	×	横浜の特徴である、地域防災拠点を強調しました。
14について とりたてて拠点運営への女性の参画を記載することは、逆差別のように感じる。	×	原案は、阪神淡路大震災や東日本大震災の経験を踏まえた表現としています。
21について 「知識と技術」は、技巧的なものも含むが、適宜その形を変えながらフレキシブルなものであってほしいので「知恵」としてはどうか。	○	経験等を踏まえた知恵が大切なことから、変更します。
22について 「横浜はオープンな街」は、「地域住民だけでなく」に修正したらどうか。	×	横浜らしさを出すため、このような表現にしました。
22・23について 「横浜はオープンな街、訪れている人みんなに分け隔てなく手を差し伸べます。」と、「私たち横浜市民は、遠方の災害で被災した皆さんにもできる限りの支援をします。」は、大都市横浜にふさわしく、すばらしい。ぜひ将来に向け残してほしい。	—	

その他

市民意見	検討結果	
小学校高学年も見ること考え、憲章はなるべくひらがなを使い、難しい漢字はフリガナを入れるようにしたほうがよい。	○	今後検討してまいります。
多くの外国人の方が住んでいるため、英語、中国語、韓国語、スペイン語の物も必要。		
防災に関心のある人は理解しながら読めるが、誰もがすんなり入ってくるか疑問なので、副読本を作ってほしい。		
学校の授業で指針を教材として活用して欲しい。		



よこはま地震防災市民憲章

～ 私たちの命は私たちで守る ～

ここ横浜は、かつて関東大震災に見舞われ、多くの方が犠牲になりました。
大地震は必ずやってきます。その時、行政からの支援はすぐには届きません。
私たち横浜市民はそれぞれが持つ市民力を発揮し、一人ひとりの備えと地域の絆で大地震を乗り越えるため、ここに憲章を定めます。

穏やかな日常。それを一瞬にして破壊する大地震。大地震はいつも突然やって来る。今日かもしれないし、明日かもしれない。

だから、私は自分に問いかける。地震への備えは十分だろうか。

大地震で生死を分けるのは、運・不運だけではない。また、自分で自分を守れない人がいることも忘れてはならない。私は、私自身と周りの大切な人たちの命を守りたい。

だから、私は考える。今、地震が起きたら、どう行動しようかと。

不安の中の避難生活。けれどみんなが少しずつ我慢し、みんなが力を合わせれば必ず乗り越えられる。

だから、私は自分に言い聞かせる。周りのためにできることが私にも必ずあると。

東日本大震災から、私たちは多くのことを学んだ。頼みの行政も被災する。大地震から命を守り、困難を乗り越えるのは私たち自身。多くの犠牲者のためにも、このことを風化させてはならない。

だから、私は次世代に伝える。自助・共助の大切さを。

よこはま地震防災市民憲章〔行動指針〕

(備え)

- 1 自宅の耐震化と、家具の転倒防止をしておきます。
- 2 地域を知り、地域の中の隠れた危険を把握しておきます。
- 3 少なくとも3日分の飲料水、食料、トイレパックを備蓄し、消火器を設置しておきます。
- 4 家族や大切な人との連絡方法をあらかじめ決めておきます。
- 5 いつとき避難場所、地域防災拠点や広域避難場所、津波からの避難場所を確認しておきます。
- 6 家族ぐるみ、会社ぐるみ、地域ぐるみで防災訓練に参加します。

(発災直後)

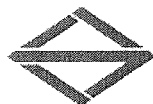
- 1 強い揺れを感じたら、命を守るためにその場に合った身の安全を図ります。
- 2 怖いのは火事、揺れが収まったら速やかに火の始末を行います。
- 3 近所のお年寄りや障害者の安否を確認し、余震に気をつけながら安全な場所へ移動します。
- 4 避難する時は、ガスの元栓と電気のブレーカーを落とし、備蓄食料と常用薬を持って行きます。
- 5 断片的な情報しかない中でも、噂やデマに惑わされないよう常に冷静を保ちます。
- 6 強い揺れや長い揺れを感じたら、最悪の津波を想定し、ためらわず大声で周囲に知らせながら高いところへ避難します。

(避難生活)

- 1 地域防災拠点ではみんなが被災者。自分にできることを見つけて拠点運営に協力します。
- 2 合言葉は「お互いさま」。拠点に集まる一人ひとりの人権に配慮した拠点運営を行います。
- 3 避難者の半数は女性。積極的に拠点運営に参画し、女性の視点を生かします。
- 4 子どもたちの力も借りて、一緒に拠点運営を行います。
- 5 消防団員も拠点運営委員も同じ被災者。まずは感謝の言葉を伝えます。
- 6 「助けて」と言える勇気と、「助けて」に耳を傾けるやさしさを持ちます。

(自助・共助の推進)

- 1 あいさつを手始めに、いざという時に隣近所で助け合える関係をつくります。
- 2 地域で、隣近所で、家庭で防災・減災を学び合います。
- 3 子どもたちに、大地震から身を守るための知恵と技術、そして助け合うことの大切さを教えます。
- 4 私たちは、遠方の災害で被災した皆さんにもできる限りの支援をします。
- 5 横浜はオープンな街、訪れている人みんなに分け隔てなく手を差し伸べます。
- 6 私たち横浜市民は、行政と力を合わせて大地震を乗り越えます。



よこはま地震防災市民憲章
～ 自らの命は自ら守る ～

ここ横浜は、かつて関東大震災に見舞われ、多くの犠牲者を出しました。
大地震は必ずやってきます。その時、行政からの支援はすぐには届きません。
私たち横浜市民は持ち前の市民力を発揮し、一人ひとりの備えと地域の絆で大地震を乗り越えるため、ここに憲章を定めます。

穏やかな日常。それを一瞬にして破壊する大地震。大地震はいつも突然やって来る。今日かもしれないし、明日かもしれない。

だから、私は自分に問いかける。地震への備えは十分だろうか。

大地震で生死を分けるのは、運・不運だけではない。また、自分で自分を守れない人がいることも忘れてはならない。私は、私自身と周りの大切な人たちの命を守りたい。

だから、私は考える。今、地震が来たら、どう行動しようかと。

避難生活は苦しいけれど、みんなが少しずつ我慢し、みんなが力を合わせれば必ず乗り越えられる。

だから、私は自分に言い聞かせる。周りのためにできることが私にも必ずあると。

東日本大震災から、私たちは多くのことを学んだ。頼みの行政も被災する。大地震から命を守り、困難を乗り越えるのは私たち自身。多くの犠牲者のためにも、このことを風化させてはならない。

だから、私は次世代に伝える。自助・共助の大切さを。

(備え)

- 1 少なくとも3日分の水、食料、トイレパックを備蓄しておきます。
- 2 自宅の耐震化と、家具の転倒防止をしておきます。
- 3 地域を知り、地域の中の隠れた危険を把握しておきます。
- 4 家族や大切な人との連絡方法をあらかじめ定めておきます。
- 5 地域防災拠点や広域避難場所、津波からの避難場所を確認しておきます。
- 6 家族ぐるみ、地域ぐるみで防災訓練に参加します。

(発災直後)

- 7 強い揺れを感じたら、命を守るためにその場に合った身の安全を図ります。
- 8 こわいのは火事、揺れが収まったらすみやかに火の始末を行います。
- 9 近所のお年寄りや障害者の安否を確認し、余震に気をつけながら安全な場所へ移動します。
- 10 避難する時は、ガスの元栓と電気のブレーカーを落とし、備蓄食料と常用薬を持って行きます。
- 11 断片的な情報しかない中でも、噂やデマに惑わされないよう常に冷静を保ちます。
- 12 強い揺れや長い揺れを感じたら、最悪の津波を想定し、ためらわず大声で周囲に知らせながら高いところへ避難します。

(避難生活)

- 13 地域防災拠点ではみんなが被災者。自分にできることを見つけて拠点運営に協力します。
- 14 避難者の半数は女性。積極的に拠点運営に参画し、女性の視点を活かします。
- 15 子どもたちの力も借りて、一緒に拠点運営を行います。
- 16 合言葉は「お互いさま」、拠点に集まるみんなの人権に配慮した拠点運営を行います。
- 17 消防団も拠点運営委員も同じ被災者。まずは感謝の言葉を伝えます。
- 18 「助けて」と言える勇気と、「助けて」に耳を傾けるやさしさを持ちます。

(自助・共助の推進)

- 19 あいさつを手始めに、いざという時に隣近所で助け合える関係をつくります。
- 20 地域で、隣近所で、家庭で防災・減災を学び合います。
- 21 子どもたちに、大地震から身を守るための知識と技術、そして助け合うことの大切さを教えます。
- 22 横浜はオープンな街、訪れている人みんなに分け隔てなく手を差し伸べます。
- 23 私たち横浜市民は、遠方の災害で被災した皆さんにもできる限りの支援をします。